

UNIVERSITY OF TSUKUBA

筑波大学発行
総務・企画部編集

12

平成16年 6月 23日
通巻1081号

2004 速報つくば

計算科学研究センター発足記念式典及びシンポジウム
「計算科学による新たな知の発見・統合・創出」開催



あいさつする岩崎学長

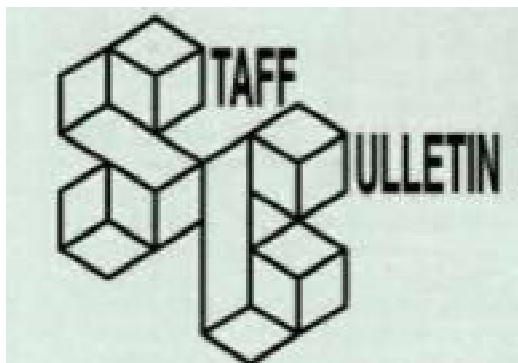
6月10日(木)に計算科学研究センターの発足記念式典が、大学会館国際会議室で開催されました。

このセンターは、全国共同利用施設計算物理学研究センター(平成4年度発足)を改組・拡充して、素粒子宇宙研究部門、物質生命研究部門、地球生物環境研究部門、超高速計算システム研究部門、計算情報学研究部門及び共同研究部門の全6部門体制で、本年4月に発足し、本学の伝統である、応用分野と計算機分野の研究者の密接な研究協力体制を生かして、計算科学の新たな発展を先導しようとするものです。

式典では、宇川計算科学研究センター長、岩崎学長の挨拶のあと、文部科学省研究振興局学術機関課佐藤課長補佐、京都大学九後基礎物理学研究所長、国立情報学研究所末松所長(代読)の祝辞が述べられました。

式典に引き続き、6月10日(木)、11日(金)の2日間にわたって発足記念シンポジウム「計算科学による新たな知の発見・統合・創出」が開催され、計算科学の応用諸分野及び計算機・情報科学分野の招待講演8件、同センター研究者の講演11件が行われました。

学内外から延べ290名の参加者があり、計算科学の幅広い分野にわたって活発な意見交換が行われました。



土井正幸教授、佐藤美佳助教授、土井教授指導下の社会工学研究科修了伊藤秀和講師(関西学院大学商学部)、社会工学研究科修了河上哲博士(日本学術振興会特別研究員)、経営・政策科学研究科2年近藤智士氏及びシステム情報工学研究科2年日吉拓也氏らが日本港湾協会論文賞を受賞



左から河上氏、近藤氏、佐藤助教授、土井教授、日吉氏

土井正幸教授(システム情報工学研究科、社会システム工学専攻)編著、佐藤美佳助教授(同研究科、リスク工学専攻)土井教授指導下の社会工学研究科修了伊藤秀和講師(関西学院大学商学部)、社会工学研究科修了河上哲博士(日本学術振興会特別研究員)、経営・政策科学研究科2年近藤智士氏及びシステム情報工学研究科2年日吉拓也氏らが共著者となり、2003年11月に多賀出版から出版した著書「港湾と地域の経済学」が、日本港湾協会論文賞を受賞しました。

社団法人日本港湾協会は日本の約1,000港を会員とし、港湾に関する政策を考え、港湾に関する知識を広め、港湾の施設の整備とその管理を改善し、もって産業の振興と貿易の促進に寄与することを目的としております。表彰式は5月26日に開催された第76回通常総会(於横浜港)で行われ、「この研究は港湾と経済に関する政策の分析を総合的に行い、我が国の経済と港湾の役割を実証的に明らかにすることを試みたものであり、港湾の振興発展に大きく貢献するものであります。」と高い評価を受けました。

鎌田博教授がフランス共和国政府より教育・学術功労勲章を受章



ミシェル・イスラエル参事官と鎌田教授（右）

鎌田博教授（生命環境科学研究科，情報生物科学専攻）が，フランス共和国政府より，教育・学術功労勲章シュバリエを受与されました。

鎌田教授は，10年間以上の永きに亘り，教育・学術において日本とフランスとの2国間交流に重要な役割を果たしてこられました。

この勲章は，その顕著な貢献に対して贈られたものです。なお，受勲式は6月8日（火）にフランス大使館にて執り行われ，在日フランス大使館科学技術参事官ミシェル・イスラエル氏より叙勲されました。

徳増征二教授，柿島眞教授及び両教授が指導した平成13年農学研究科修了岩本晋氏並びに東北大学大学院農学研究科陶山佳久助教授らが日本菌学会平塚賞を受賞



授与式の様子：左から徳増教授，岩本氏

徳増征二教授（生命環境科学研究科，構造生物科学専攻，菅平高原実験センター），柿島眞教授（同研究科，生物圏資源科学専攻）及び両教授が指導した平成13年農学研究科学位取得修了岩本晋氏（現：協和発酵工業東京研究所）並びに東北大学大学院農学研究科陶山佳久助教授の共著論文“Molecular phylogeny of four selected species of the

strictly anamorphic genus *Thysanophora* using nuclear ribosomal DNA sequences”（*Mycoscience* 43:160-180.に掲載）に対し，日本菌学会より2004年度平塚賞が授与されました。

この賞は，同学会の英文誌*Mycoscience*に掲載された論文の中から将来にわたり国際的に高い評価の期待される研究論文に授与されるものです。この論文は，マツ科針葉樹の落葉分解初期にニッチを持つ微小菌類である *Thysanophora* 属の系統的な位置，属内の種間関係を分子系統学的手法により解析したもので，この属とアオカビ（*Penicillium*）属との関連を明確にした点が特に高く評価されました。

授賞式は，長崎シーボルト大学で開催された日本菌学会第48回大会において行われました。

渡辺三枝子教授がアメリカカウンエリング学会のInternational Awardを受賞



渡辺三枝子教授（人間総合科学研究科，大塚地区カウンセリングコース担当）は，アメリカカウンエリング学会のNational Career Development Associationから第1回International Awardを受与されることになりました。

渡辺教授の，キャリア発達研究及びキャリアカウンセラー教育に関する長年の研究成果が，国際進路指導学会及び米国のキャリア発達研究者に高い評価を得たことで，国際会議における最初の受賞者となることになり，満場一致で決定されました。

なお，授賞式は，6月30日の同学会において行われます。

竹谷悦子助教授がアメリカ学会清水博賞を受賞



竹谷悦子助教授（人文社会科学研究科，現代文化・公共政策）が2003年度アメリカ学会清水博賞を受賞しました。

同賞は日本におけるアメリカ研究の発展に多大な貢献をした学術書に与えられるものです。受賞対象となった著書

は，*U.S. Women Writers and the Discourses of Colonialism, 1825-1861*（テネシー大学出版局，2003年）です。

6月6日（日）の第38回アメリカ学会年次大会総会席上において授賞式が行われ，賞状と賞金が授与されました。

藪野浩司助教授が財団法人東電記念科学技術研究所研究助成金を受賞

藪野浩司助教授（システム情報工学研究科）は，研究課題「超高速回転時のローターダイナミクスの解明と安定



化制御手法の開発」により、財団法人東電記念科学技術研究所の平成15年度研究助成金を受賞しました。この助成金は、昭和13年に東京電力の前身東京電燈株式会社の50周年を記念して設立されたもので、すぐれた若い学術研究者が早く成果を出して世の中で活躍出来るように、自由な研究の機会を提供することを趣旨としています。

磯田博子助教授が日本沙漠学会学術論文賞を受賞



日本沙漠学会吉野正敏会長（本学名誉教授）から表彰状を授与される磯田助教授

磯田博子助教授（生命環境科学研究科、国際地縁技術開発科学専攻、北アフリカ研究センター担当）は、5月18日、19日に開催された日本沙漠学会第15回記念学術大会（国連大学）において学術論文賞を受賞しました。受賞の対象となった研究は「乾燥地有用生物資源の機能開発と有効利用に関する研究」で、極限環境下に生育する乾燥地植物から独自のバイオアッセイにより生理活性物質を探索し機能性食品や医薬品開発を行う研究が、乾燥地におけるバイオプロスペクティング（生物資源探査）の画期的な業績ならびに新たな研究分野の創出につながるとして高く評価されたものです。

安坂幸師助手がナノ学会で若手優秀発表賞を受賞



安坂幸師助手（数理物質科学研究科、ナノサイエンス特別プロジェクト）は、5月9日（日）～11日（火）まで東京学士会館において開催されたナノ学会の第2回講演会で若手優秀発表賞を受賞しました。

この賞は、本大会で発表した35歳以下の若手研究者を対象に設けられたものです。受賞対象になった講演課題は、木塚徳志助教授（数理物質科学研究科）指導下の理工学研究科2年Deng Fei氏及び木塚徳志助教授との共著「孤立単層カーボンナノチュ

ーブの作製と力学特性の解析」です。原子一層だけで構成されたチューブ状試料の作製とその構造・物性同時観察の成果が評価されました。

望月昭彦教授指導下の人文社会科学研究所4年小泉利恵氏が英検研究助成に入選



望月昭彦教授（人文社会科学研究所）指導下の人文社会科学研究所4年小泉利恵氏が第17回英検研究助成に入選し、30万円の助成を受けることになりました。

入選したテーマは、「日本人英語学習者における発表語彙知識の広さと深さの関係」です。話す・書く際に使う発表語彙知識には、「広さ」と「深さ」の2つの側面がありますが、その2つの関連を調べることが研究目的です。

この研究をすることで、語彙知識を測る際に適切なテスト形式を選ぶことが可能になると考えられます。授賞式は7月3日、日本出版クラブ会館で行われ、2005年発行の「STEP Bulletin」第17号において、研究成果が掲載されます。

鬼沢武久教授指導下のシステム情報工学研究科5年林篤司氏及び宮本定明教授指導下のシステム情報工学研究科3年水谷清隆氏が、それぞれ日本知能情報ファジィ学会奨励賞を受賞



林篤司氏



水谷清隆氏

鬼沢武久教授（システム情報工学研究科）指導下のシステム情報工学研究科5年林篤司氏（知能機能システム専攻）及び宮本定明教授（シ

ステム情報工学研究科）指導下のシステム情報工学研究科3年水谷清隆氏（リスク工学専攻）が、それぞれ2004年度日本知能情報ファジィ学会奨励賞を受賞しました。

この賞はファジィ理論とその周辺分野における基礎・応用において若手研究者の研究を奨励するために授与されるものです。

林篤司氏は、昨年の第19回ファジィシステムシンポジウムで発表した論文「状況を考慮したファジィ評定について」に対して授与されたもので、研究内容をはじめ、発表態度、質疑応答の態度などを総合的に評価されての受賞となりました。

水谷清隆氏も同じく「ファジィマルチ集合とカーネル関数を利用したクラスタリング」の論文で、研究内容及びプレゼンテーションの良さが高く評価されたものです。授賞式は6月4日に九州工業大学で開催された第20回ファ

ジシステムシンポジウムで行なわれました。

ホンジュラス算数指導研修団油田信一研究担当副学長を表敬訪問



ホンジュラス国算数指導研修団一行17名

教育開発国際協力研究センター（CRICED：中田英雄センター長）では、国際協力機構（JICA）によるホンジュラス国算数指導力向上プロジェクトを2003年度より支援しています。ホンジュラス国は、ユネスコ「万人のための教育」宣言実現指定国として各国から支援を受けており、特に、日本は教育協力の得意分野として算数教育を分担しています。

このプロジェクトでは、算数の指導書とワークブックを開発し、その指導書による優れた指導法の普及をめざします。そして、ホンジュラス国の算数指導を改善することにより、就学率、進級率の改善を進め、ホンジュラス国の自立的発展を支援します。

また、このプロジェクトは、日本側では、磯田正美（責任者／CRICED，人間総合科学研究科）、清水静海（人間総合科学研究科，学校教育学専攻）及び附属小学校（堀和郎校長）算数部（坪田耕三，細水保宏，田中博史，山本良和，夏坂哲志）等が協力しております。今秋には、このプロジェクトで開発された教科書の国定教科書化が予定されています。

今回の受入研修は、このプロジェクトで3回目を迎えます。受入研修は、6月14日～7月6日の間で、2週間を東京キャンパス、1週間を筑波キャンパスで行います。その間、教育学系と附属学校関係教員の支援を得て、教育行政、学校経営、教員研修、算数教育の研修が実施されます。

研修の初日として6月15日、研修団一行は油田信一副学長を表敬訪問しました。油田副学長は、明治5年以來の教育研究の伝統、開学30年来の国際的発展を紹介され、自らのロボット研究を例に、JICA受入研修の重要性を指摘され、ホンジュラス国からの留学を歓迎されました。Navarro Poso国立教育大学教員研修所長、Montufar Chinchilla国立教育実践研修所長からは、算数指導力向上プロジェクトによる研修団受入のお礼と、本学による教育協力継続の必要性和期待が述べられ、今後の一層の協力要請がありました。

一方、油田副学長からは、JICAと共同して今後も継続

支援したいとの言葉がありました。



油田副学長とNavarro Poso所長

第3回スーパーコンピュータワークショップ開催される - 学術情報メディアセンター -



招待講演を行なう張助教授

6月14日（月）に、学術情報メディアセンター主催の「第3回筑波大学スーパーコンピュータワークショップ ～自然現象をシミュレーションする数理的的手法～」が、大規模制度によるmimosa利用グループの、学内外に対する研究成果報告及び情報発信の場として開催されました。

平成15年度の大規模利用グループの利用成果報告を中心に、油田信一副学長の挨拶と張紹良助教授（東京大学大学院工学系研究科）の招待講演が行われ、各講演に対する質疑応答においても活発な議論が交わされました。各グループと招待講演のプレゼンテーション資料等は、後日、次のホームページに掲載予定です。

<http://www.cc.tsukuba.ac.jp/mimosa/workshop/>

産学官連携フェアに出展 - 東京リエゾンオフィス -

東京リエゾンオフィスでは、産学リエゾン共同研究センターと協力して、6月10日（木）10:00から埼玉県産業技術総合センターにおいて開催された「産学官連携フェア」



科学技術相談の様子

(主催：(財)埼玉県中小企業振興公社，埼玉県(労働商工部)，埼玉県産業技術総合センター及び(財)埼玉りそな産業協力財団)に出展しました。

出展は，大学等13機関で，総数458名(内出展関係者200名)の参加者がありました。

「バイオディーゼルによる地域資源・エネルギー循環社会の構築」松村正利教授(生命環境科学研究科)

「3次元自由視点映像スタジオ」大田友一教授(システム情報工学研究科)

「トルクディスプレイ Gyro Cube」福井幸男教授(同)

「自律型移動ロボット技術」油田信一教授(同)

「マイクロ送液システム」鈴木博章助教授(数理物質科学研究科)

「サイバーノイド：パワースーツ/ロボットスーツHAL - 人間と機械の一体化・共依存技術を支える Cybernics - 」山海嘉之教授(システム情報工学研究科)

「発達障害児者の認知機能の神経心理学的評価」前川久男教授(人間総合科学研究科)

「原子直視法による半導体ナノチューブ合成と物性解析法」木塚徳志助教授(数理物質科学研究科)

「高効率タンデム太陽電池に向けた窒化物半導体材料の研究開発」岡田至崇助教授(同)

の研究成果(9件)について，パネルで展示しました。研究成果の解説と技術相談は，シニアコーディネータ2名(大島宣雄元教授、藤森恵元教授)が担当しました。

中国高校生訪日団来校

- 附属高等学校 -

5月26日(水)に，中国高校生訪日団(中国全土から選抜された重点校の高校生及び教員，総勢101名)が附属高等学校を訪問しました。

この事業は，1998年11月，江沢民国家主席の日本訪問の際に，日中両国政府間で取り決められた青少年の相互交流を行うとの合意に基づき，財団法人日中友好会館が日本政府の委託を受け，毎年中国の高校生を日本へ招聘するというものです。

13:30に訪日団が到着し，本校体育館にて，ただちに歓



海保校長(左)と王凡団長

迎会を催しました。海保博之附属高等学校長及び訪日団団長で中国教育部国際合作交流局亜非課参事官の王凡氏の挨拶の後，平井敦史生徒会長(2年)の挨拶を附属高等学校2年の趙一夢さんが中国語に，中国の生徒代表，吉林省实验中学2年の王泰然君の挨拶を，長春外国語学校2年の郝爽さんが日本語に通訳しました。

歓迎会の後，訪日団の中国高校生は，授業参観及び部活動の見学を行い，「東京プリンスホテル」で行われる「歓迎の夕べ」(日中友好会館主催)に向かいました。

同校には3時間の滞在でしたが，若者同士，すぐにうち解け，日中双方とも別れ際は，名残惜しそうでした。因みに，媒介となる言語は英語が多かったようです。東京プリンスホテルでの「歓迎の夕べ」では，外務省アジア大洋州局中国課長泉裕泰氏，文部科学大臣政務官田村憲久氏，中国大使館教育公使参事官李東翔氏及び王凡訪日団長などからの挨拶の後，日中の高校生の出し物の交流をしました。

歌あり，踊りあり，大道芸ありとバラエティーに富んだ楽しい出し物ばかりで，大いに盛り上がりましたが，中でも日本側の「草原情歌」演奏時には，青海省から来られた引率の先生が，地元の歌を日本人がなぜ知っているのかと驚いたり喜んだりされていました。

最後は，沖縄の音楽で日本で大流行した「花」を日中の高校生全員で唱いました。中国側は事前に練習したのか，「花」を日本語で唱っており，日中の高校生の交流はここに極まれりといった感があるすばらしい合唱でした。交流の実を見事に挙げつつ，閉会となりました。

附属桐が丘養護学校高等部2年柳澤達也君が「2004アテネオリンピック東京聖火リレー」メンバーに

附属桐が丘養護学校高等部2年柳澤達也君が，8月に開催されるアテネオリンピックを記念して行われた東京聖火リレーの走者を務めました。

東京聖火リレーはオーストラリアのメルボルン，シドニーに次いで，聖火リレー3番目の都市として6月6日に行われ，早朝からあいにくの雨でしたが，沿道には多くの旗が振られました。ランナーへ声援が飛びながら，柳澤君



伴走者とともに聖火リレーをおこなう柳澤君（右）は特性のトーチホルダーを車椅子に装着し13:30過ぎに稲荷町交差点で聖火を受け取り、上野警察署までの区間約350メートルを堂々とリレーしました。

有志大学院学生とのジョイントによる低農薬稲作栽培プロジェクト開始 - 農林技術センター -



5月29日に農林技術センター水田において田植えが行われました。これは、稲作を体験したい大学院学生（生命環境科学研究科及び教育研究科）19名が農林技術センター作物班の指導の下、1年間にわたって稲作を体験するものです。

農林技術センターでは、農業の自然循環機能の維持増進を図るため、生産過程で使用される化学合成農薬の使用回数及び化学肥料の窒素成分量が地域の慣行の5割以下とした特別栽培農産物の栽培に取り組もうと考えておりました。そこへ、農薬や化学肥料を試用しない稲作を体験したいと学生から申し出があったため、両者が協力して低農薬稲作栽培プロジェクトを推進することになりました。

栽培する米は、良食味の低グリテリン米新品種、「LGCソフト」です。これは易消化タンパク質であるグリテリン含有量が少ないため、タンパク質を減らした食事療法が必要な腎臓病患者の病態食としての利用が可能で、従来の病態食に比較して、安価でかつ、良食味な品種です。

栽培にあたっては、除草剤のかわりに米ぬかを試用して雑草防除を行い、対応できないものについては手取り除草で管理する計画です。

晴天に恵まれた当日は、田植えも順調に終わり、昼食には、歴史的に著名な品種である、金南風、藤坂5号、日本晴、密陽23号やスノーパール、赤米、黒米、コシヒカリの8品種の試食も実施しました。

農林技術センターでは、今年度のプロジェクト成果を次年度の認証取得につなげると共に、学生が稲作栽培の理解を深める場になればと考えています。

「筑波大学におけるバスに関するアンケート」調査協力のおお願い

- 新学内交通システム検討プロジェクトチーム
主査 石田東生 -

平成17年度以降現行の学内連絡バスの運行が困難となることを踏まえ、副学長のもとに「新学内交通システム検討プロジェクトチーム」を設置し、学内連絡バスサービスのあり方などの検討を開始しました。

このたび、このプロジェクトチームでは、筑波キャンパスにおける学生及び職員の交通に関する意向や交通機関利用の実態などを把握するため、6月22日（火）～28日（月）の間、アンケート調査を行うこととなりました。対象者は無作為に抽出させていただきますが、調査の趣旨をご理解の上、ご協力くださいますようお願いいたします。

破傷風予防接種の実施について - 保健管理センター -

平成16年度の破傷風予防接種を次のとおり実施しますので、お知らせいたします。

対象者：学生・教職員の希望者（学生証・職員証を持参願います。）

日時：第1回 7月2日（金）13:30～15:30

第2回 8月31日（火）9:00～11:00

場所：保健管理センター

接種方法：効果を高めるために、初めての方は標記日時に2回の接種を受け、さらに来年1回の接種を受けることにより基礎免疫が完了します。あとは5年～10年毎に1回接種を受け、追加免疫を得ることになります。

費用：無料

予約申込：接種希望の方は、6月25日（金）までに保健管理センター受付において、所定の申込書により予約をしてください。

予約のない場合は、接種できません。

問合せ先：保健管理センター（TEL2410）

初心者(新規)講習会「放射線業務従事者講習会」(第93回)の開催について

- 研究基盤センターアイソトープ部門 -

新たに放射線を取り扱う予定の教職員・学生等に対する法定の講習(教育・訓練)を次のとおり行います。

なお、学生には掲示をしますが、指導教官におかれましても研究等を予定している学生に対し周知方を願います。

日時：7月14日(水) 9:00~14:50 講義
15:00~受付開始 特別健康診断
15日(木), 16日(金) 8:50~17:00 実習
実習は、前又は午後の半日となります。

場所：講義 アイソトープ部門講義室
特別健康診断 保健管理センター
実習 アイソトープ部門実習室

定員：80名(先着順締切)

申込：7月5日(月)~8日(木)までに印鑑持参の上、
アイソトープ部門事務室に受講者本人が直接申し込んでください。

用紙はアイソトープ部門事務室にあります。

生命科学動物資源センター施設整備に関する説明会の開催について

生命科学動物資源センターの新棟建設、既存棟改修工事が平成16年9月頃より開始され、一連の工事は平成18年末まで続きます。

施設整備計画の概要、改修期間中の動物の飼育場所、整備終了後の利用原則などについて説明会を開催します。今後の実験計画を考える上で重要な内容ですので是非、御参加ください。

内容：1) 新棟建設、既存棟改修の全体計画
2) 改修期間中の動物の飼育
3) 整備終了後の利用原則
4) 質疑

日時：7月13日(火) 15:00~16:30
15日(木) 15:00~16:30
(火曜日と木曜日の2回、実施します。)

場所：臨床講義室C(医学図書館の上)

TARAプロジェクト研究成果報告会の開催について

先端学際領域研究センターでは、5月20日に平成15年度終了プロジェクト研究成果報告会を開催しました。しかし、事情により未報告のプロジェクトにつき、次のとおり研究成果報告会を開催いたします。皆さんの出席をお待ちしています。

日時：7月16日(金) 13:00~13:50
場所：先端学際領域研究センターA棟2階セミナー室
プログラム：13:00~13:50

ケイ素及びゲルマニウムを鍵元素とする機能性有機金属分子の設計と創製

発表者：関口章教授(数理物質科学研究科)

司会：赤阪健教授(同)

連絡先：先端学際領域研究(TARA)センター
(TEL6083, FAX6074)

陸域環境研究センター談話会の開催について

陸域環境研究センターでは不定期に談話会を開催しております。今回は、これまで30年以上にわたり、世界各地の火山地形の研究を進めてこられた守屋以智雄教授に、火山の地形についてご講演いただきます。お誘いあわせの上、是非ご参加ください。

日時：6月26日(土) 10:00~17:00

場所：陸域環境研究センター会議室

会費：1,000円(昼食代)

講師：守屋以智雄(金城大学)

講演題目：日本と世界の火山地形(仮題)

昼食を陸域環境研究センターで用意いたしますので、会費をご用意ください。

人数を把握するため、参加される場合は、次にご連絡ください。

陸域環境研究センター事務室(TEL2532)

E-mail: jimu@suiiri.tsukuba.ac.jp

関連サイト：<http://www.suiiri.tsukuba.ac.jp>

[/new/Whatsnew/seminar04_3.html](http://www.suiiri.tsukuba.ac.jp/new/Whatsnew/seminar04_3.html)

21世紀COEプログラム拠点「こころを解明する感性科学の推進」第1回公開シンポジウム「感性を知る・測る・探る」の開催について

人間を理解するためには、感性的な側面からアプローチすることが必要だと思われませんが、感性の働きについては未だあまり解明されていません。

本学の21世紀COEプログラム拠点「こころを解明する感性科学の推進」では、医学、心理学、芸術学、心身障害学の研究を融合した感性科学の拠点を形成し、こころの働きを明らかにすべく活動しています。

今回のシンポジウムでは、人間の感性に関わる話題を広く取り上げ、感性とは何か、感性をどのようにして測定するのか、感性の起源は何かについて考えます。

日時：7月6日(火) 10:00~

場所：総合研究棟D1階講義室

プログラム：

午前の部 10:00~

開会の挨拶：油田信一副学長

美と魅力の認知神経科学：神経美学(Neuroaesthetics)

川畑秀明助教授(鹿児島大学教育学部)

視覚心理学と絵画作品

行場次朗教授(東北大学大学院文学研究科)

感性行動の計測と構造化による理解
山中敏正助教授（人間総合科学研究科）

午後の部 13:45～

瞬間の感性 - 写真からのアプローチ

港千尋教授（多摩美術大学美術学部）

新規神経ペプチドと精神機能

桜井武助教授（人間総合科学研究科）

パウムガルテンの感性的認識学

松尾大教授（東京藝術大学美術学部）

臨床の中で感性を考える

宮本信也教授（人間総合科学研究科）

鳥からヒトを見る

渡辺茂教授（慶応義塾大学文学部）

閉会の挨拶：榎正幸教授（人間総合科学研究科）

懇親会 18:00～

連絡先：人間総合科学等支援室医学支援室内

21世紀COEプログラム事務室

拠点リーダー・榎正幸（事務担当・石渡洋子）

（TEL3939）

E-mail：coe.jimu@md.tsukuba.ac.jp

U R L：http://www.kansei.tsukuba.ac.jp/coe/

第4回比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトCSC セミナーの開催について



比較市民社会・国家・文化特別プロジェクト
CSCセミナー・シリーズ

http://www.csc.tsukuba.ac.jp

E-mail: csc@social.tsukuba.ac.jp

比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトでは第4回
比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトCSCセミナー
を次により開催します。皆様の参加をお待ちしております。

日 時：6月29日（火）16:45～18:00

場 所：総合研究棟A110

講演者：今泉容子教授（人文社会科学研究所）

司会者：川那部保明教授（同）

演 題：映画に見る女市民 - 日本映画の場合

概 要：

映画のなかで市民（とくに女の市民）は、どのように
表象されてきたでしょうか。映画が提示する市民像は、
文化圏ごとに異なった形を見せます。

今回のセミナーでは日本映画に焦点をしばり、さらに
「ごくふつうの市民」をテーマとした「小市民映画」
を考察の対象にします。そして「小市民映画」が成熟
していくプロセスのなかで、女市民が変貌していく様
子を解明しようと思えます。

キーワードは「女」「市民」及び「映画」の三つです。

それらが交差する領域へ、数々の日本映画を見ながら
分け入っていきましょう。

共 催：独立行政法人日本学術振興会「人文・社会科学
振興のためのプロジェクト研究事業（多元的共
生社会に向けた知の再編）多元的共生に関する

国際比較」

連絡先：岩田拓夫（iwata@social.tsukuba.ac.jp）

第6回CSC「住民自治組織と統治構造に関する比較研究 会」の開催について

- 比較市民社会・国家・文化特別プロジェクト -

比較市民社会・国家・文化特別プロジェクトでは、住民
自治組織と統治構造に関する比較研究会を次により開催
します。皆様の参加をお待ちしております。

日 時：7月3日（土）13:00～17:00

場 所：日本学術振興会麹町事務室

東京都千代田区麹町5-3-1（ヤマトビル）4F

講演者：井上恭子教授（大東文化大学）

演 題：インドの住民自治：地方自治制度の機能と限
界

講演者：久邇良子助教授（東京学芸大学）

演 題：フランスの統治構造と住民自治組織

共 催：独立行政法人日本学術振興会「人文・社会科学
振興のためのプロジェクト研究事業（多元
的共生社会に向けた知の再編）多元的共生に
関する国際比較」

連 絡 先：岩田拓夫（iwata@social.tsukuba.ac.jp）

第2回マスコミ工学研究会の開催について

平成16年度第2回マスコミ工学研究会で、次の講演会を
開催します。興味のある方は奮ってご参加下さい。

日 時：6月28日（月）17:30～19:30

場 所：第三学群L棟3L307号室

講演者：松林麻実子講師（知的コミュニティ基盤研究セ
ンター）

演 題：図書館情報学および社会情報学の領域における
メディア研の動向とメディア観

概 要：

“マスメディアとは何か”であるとか“マスメディア
は何を伝えているのか”という問題は、図書館情報学
および社会情報学の分野においても、継続的に取り扱
われてきたものである。

ここでは、両分野において近年注目されているメデ
ィア・ピオトープ論やテレビニュースのアーカイブに関
する問題、メディアの伝える内容と構造との関係など
について、これまでの研究成果の概要を紹介するとと
もに、その根底にあるメディア観について考察したい。
詳細は、http://vmlab.kz.tsukuba.ac.jp/mctをご覧ください。

走友会が平成16年度年次総会を開催

走友会（会長：鈴木秀則）では5月13日（木）に平成16
年度の年次総会を開催しました。総会に先立ち、役員か



前列左から佐野（情報推進室）、磯田（副学長）、鈴木（システム情報工学等支援室）、佐々木（数理物質科学研究科）、浅野（名誉教授）中列左から小池（数理物質科学研究科）、倉持（高エネルギー加速器研究機構）、塚田（筑波技術短期大学）。後列左側から溝部（組織・定員課）、根本（資金管理課）、山崎（財務企画課）、横瀬（企画課）、柏（学生生活課）、武若（システム情報工学研究科）、鍋倉（人間総合科学研究科）

ら前年度の会計並びに諸活動の報告がなされた後、出席者からは今年度の抱負が述べられました。新たに入会された文部科学省走友会においてご活躍された磯田文雄副学長（財務・施設）、溝部康雄組織・定員課長のほか、浅野勝己名誉教授（現在、埼玉東洋医療専門学校長）も出席し、終始なごやかな雰囲気の中で閉会しました。

同走友会は、平成5年7月に本学のランニング愛好家有志により発足し、学外転出者を含めると会員数は56名に上ります。

同走友会の定例行事になっているのが、毎年9月に開催している佐々木杯筑波山登山走であり、コースは陸上競技場から筑波山神社までの片道約18kmのコースで競われるもので、昨年、10回目を迎えました。また、毎年秋に文部科学省主催の全国国立学校等教職員駅伝大会に参加しており、過去に4度の優勝をし、現在二連覇中です。

なお、走友会では随時、会員を募集しているので興味のある方は総務・企画部企画課の横瀬（myokose@sec.tsukuba.ac.jp）までご連絡ください。

「速報つくば」からのお知らせ

「速報つくば」の次回(通巻1082号)の発行は7月7日(水),
原稿締切りは7月1日(木)となります。

「速報つくば」への寄稿に際しましては,一行25文字(英
字・数字は半角)で原稿作成し,できるだけ電子ファイ
ル等で寄稿してください。

学内行事, イベント情報, 教職員サークル活動などの記
事も募集しています。

お寄せ頂いた原稿は, Web上に掲載しますので, ご了
承願います。なお, 「速報つくば」のhtml版及びPDF
版は, 次のアドレスでご覧になれます。

<http://www.tsukuba.ac.jp/koho/booklets/index.html>

学内ニュース, 写真の提供及び掲載内容へのご意見は広
報課(TEL2065, FAX2014)へお願いします。

E-mail: sokuho@sakura.cc.tsukuba.ac.jp

メールで寄稿なされた際は, 「速報つくば」より原稿受付
の返信メールを配信いたしますのでご確認ください。

原稿受付の返信メールがない場合は, お手数でも広報課
までご連絡いただきますようお願いいたします。
